

国語

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<p style="text-align: center;">ア 知識及び技能</p> <p>話や文章の内容を理解するため、語彙の量を増やし、書かれていることを正しく読み取ることができること。</p>	<p style="text-align: center;">イ 思考力、判断力、表現力等</p> <p>行動したことや経験したことに基づいて、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えたり、伝えたい事柄や相手に応じて話し方を工夫したりすること。</p>

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞や促音・拗音を正しく書くことに課題がある。 ア ・簡単な内容を話すことはできるが、相手に伝わるように話すことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の音読や視写、練習問題への取り組みを通して、正しく書く力を養う。ア ・語彙を増やすことや話型を用いて話す機会を設定することなど、計画的に取り組む。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や視写の練習を授業の中や、宿題等で練習したが、正しく書ける児童は少ない。 ・話し合い活動を様々な教科でもおこなったので、相手に伝わるように話すことは上手になった。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・促音や助詞の使い方、カタカナ、漢字の定着が不十分で、文中で正しく書くことが難しい。ア ・学んだ言葉を活用することに課題がある。ア ・伝えるために必要な事柄を選んだり、話す事柄を順序立てて話したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習終了後も、日常的な課題として繰り返し指導を行う。ア ・日記の宿題の中で、指定した語彙を使い、正しく活用できるようにする。ア ・話す題材や、ペア・グループなど場の設定を工夫し、相手を意識して分かりやすく伝えることができるようにする。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・毎月 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に取り組む中で定着してきた部分もあるが、個人差が大きく、個別の手立ての必要性もあった。 ・語彙を宿題の中で活用することで、語彙の意味を把握することができた。 ・ペアやグループで話すことで、伝えることへの抵抗感はなくなり、相手を意識しようとしていた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が乏しい。ア イ ・説明文の構成理解に課題がある。ア ・物語文では、登場人物の気持ちの読み取りに課題がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の宝箱や話型を掲示・活用し、語彙を増やす。ア イ ・説明文の構成を理解できるように、ワークシートを活用し、まとめる練習をする。ア ・気持ちを表す言葉などのキーワードに着目して、サイドラインを引かせ、そこから本文に即して気持ちを考えられるようにする。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時 ・毎単元 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が高くなった。相手に伝えるための言葉を選んで文章を書けるようになった。 ・初め・中・終わりの構成を意識して文を書いたことで、構成の理解を深めることができた。 ・登場人物の気持ちを周りや人物の様子から、考えることができた。考えたことを感想文にまとめることができた。

<p>第4学年</p>	<p>・語彙の意味を理解することに課題がある。^ア</p> <p>・文章の構成が苦手で、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることが難しい児童が多い。また、話したい内容がまとまらないため、発表に自信をもって取り組むことが難しい。^イ</p>	<p>・日常的に国語辞典で単語の正しい意味を調べさせ、正しく使えるようにする。^ア</p> <p>・文章の構成を意識した文を書く機会を増やす。^イ</p> <p>・頭の中で文章の構成を考え、それを言語化させる経験を増やす。^イ</p>	<p>・常時</p> <p>・常時 朝の会のスピーチ 日記、感想文、ノート</p>	<p>・国語辞典を使って、正しい意味を知ろうとする児童が増えた。</p> <p>・国語の学習や宿題で、文を書く機会を設け、文章の構成を意識することができる児童が増えた。しかし、まだ読みやすい文章になっていない児童もいる。</p> <p>・朝の会のスピーチをしたことで、相手に伝えるための文章の構成を考えることができる児童が増えた。</p>
<p>第5学年</p>	<p>・語彙の量が少なく、言葉を知らない児童が多い。^ア</p> <p>・文章を書く際に主語が抜けている児童が多い。また、自分の気持ちや考えを表すことを苦手と感じる児童が多い。^イ</p> <p>・敬語を使うなど、場や相手に応じた話し方が苦手な児童が多い。^イ</p>	<p>・国語辞典で単語の意味を調べる活動を適宜取り入れる。^ア</p> <p>・学習の振り返りなど、短い文章を書く機会を多く設定する。^イ</p> <p>・教室内の掲示物を活用し、学習中の言葉遣いを意識させるようにする。^イ</p>	<p>・毎単元</p>	<p>・言葉を調べたり、知っている言葉を教え合ったりすることで、語彙数が増えた児童もいる。</p> <p>・文章を書く機会を増やしたことで文章を書くことに対する抵抗感が減った。</p> <p>・敬語を使って話す児童は少ない。</p>
<p>第6学年</p>	<p>・漢字を正確に書くことが苦手な児童が多い。^ア</p> <p>・自分の気持ちや考えを表すことを苦手と感じる児童が多い。^イ</p> <p>・相手に伝わるような文章表現の仕方や発表の仕方が身に付いていない。^イ</p>	<p>・普段の学習で意識をして使わせたり、ミニテストで習熟させたりしていく。^ア</p> <p>・普段から書くことを取り入れて、苦手意識を減らしていく。^イ</p> <p>・教科書の手本などから、書き方や表現の仕方を学ぶようにしていく。^イ</p>	<p>・毎単元</p>	<p>・テストの予告により、自主学習を促すことで少しずつ習得することができた。</p> <p>・説明文や物語文でこまめにノートに自分の考えを書くように指導をして少しずつ慣れてきた。</p> <p>・卒業文集を書くにあたって、教科書で書き方や表現の仕方を押さえてから取り組むようにした。</p>

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1・2年 大型提示機やタブレット端末を活用して課題や板書などを見やすくすることで、学習理解のための視覚的な援助とする。【重点:個別】</p> <p>3・4年 語彙力を高めるために、タブレット端末を活用し実物の画像や言葉の意味などを検索する。自分の考えや言葉の意味などを、ロイロノートを用いてグループで検討する。【重点:個別・協働】</p> <p>5年 タブレット端末を使用し、自ら情報や資料を集め、必要かつ適切な情報を選択する授</p>	<p>1年 授業の始めにはめあての確認、終わりには授業のまとめをする。</p> <p>2年 活動ごとのめあての確認 ワークシートを工夫し、身に付けさせたい力を養ったり、振り返ったりする。</p> <p>3年 学習の振り返りを習慣化し、身に付けることで学んだことを次の学習で生かせるようにする。</p> <p>4年 めあてを立て、めあてをもとに振り返りをする。</p>

<p>業を行う。【重点:個別】</p> <p>6年 タブレット端末を使用し、自ら必要な情報を取捨選択して、まとめる授業を行う。【重点:個別】</p>	<p>5年 身に付けたい力をめあてとして提示し、授業の終わりにめあてが達成できているか振り返りを行う。</p> <p>6年 小学校での学習のつながりと、中学校への接続を意識して取り組むようにする。</p>
--	--